



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2009.6

No. 302

日本野鳥の会 埼玉県支部

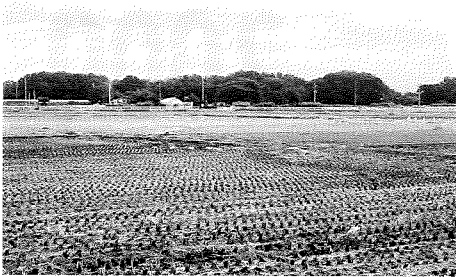
S H I R A K O B A T O



田んぼの上をタカが飛ぶ

中島 康夫 (蓮田市)

昨年の秋、県東部の平地、それも田んぼのど真ん中でタカの渡りを楽しむことができました。そこで、今後、みなさんの身近な場所でのタカの渡り観察の参考になるのではないかと、そして将来、平地観察ポイントが増えれば、渡りルートが線で結ばれるのではないかと寄稿しました。



観察場所の風景 1



観察場所の風景 2

今回の観察種はほとんどサシバでしたが、ミサゴ・ハチクマ・トビ・オオタカ・ツミ・チョウゲンボウも姿を見せてくれました。

観察時期はちょうど稲刈りが一番忙しいときで、作業で出入りされる農家の方々に多くのご迷惑をかけたと思っております。ただ今回の観察場所は、たまたま知り合いの農家でしたのでご理解をいただくことができました。

しかし、この場所がサシバ観察のポイントとして知れ渡り、カメラマンを含め多くのバードウォッチャーが押しかけられるようなことになれば、観察ができなくなる懸念があります。このため、この報告で場所を明示していないことをご理解ください。

● 最初の観察

9月3日のことでした。カイツブリの観察をしていたところ、前方の林からサシバが2羽飛び立ち、上昇気流に乗り上空を旋回し、南方向へ飛び去りました。このとき「もしかしたら、渡り途中のサシバがこの周辺の林を埒(ねぐら)にしているのではないかと…」と思い、翌4日、林近くの見渡しが効く、田んぼの真ん中の農道で観察を始めました。思った通りサシバは周辺の林で休息し、飛びたち、

あるいは多くのサシバが田んぼの上を渡って行く姿を観察することができました。

● その後の観察

観察期間；10月3日(雨天を除く毎日)までの1ヶ月間

観察時間；おおむね午前8時から12時

観察人員；2名以上

観察方法；農道に座り、四方を肉眼・双眼鏡及びスコープを使用し観察

観察場所の環境；座った前方に川と河畔林、その先には点在する雑木林や屋敷林、そして沼、後方は東西に続く林、左右は田んぼ。

● 観察結果

◎今回の観察は調査ではないので、記録は参考として捉えていただきたいと思います。1ヶ月の観察で438羽が観察されましたが、平地でこれだけのサシバが観察されたのは、驚きでした。

(右ページ表「日別出現個体数」参照)

◎遠方の林から飛びたつサシバと飛翔するサシバは双眼鏡で、前の河畔林から飛びたつサシバは肉眼で観察ことができました。更に後

方の林は近く、サシバの動きは充分観察できました。

- ◎周辺の林で峙入りしたサシバは、多くが9:00から10:30頃に飛びたち、上昇気流に乗り南又は西方向にそのほとんどは渡っていきましたが、上昇気流が出ないときはもとの林に戻っていました。

(本ページ表「時間帯別出現状況」参照)

- ◎上昇気流は、沼や川の上空が発生しやすいのか、その位置で観察することが多かったです。サシバが峙入りする林近くは、川や沼の水辺が近く、また田んぼもあり餌となるヘビやカエルその他、たくさんの昆虫類もいます。また、採餌する姿や樹頂・電柱・

アンテナに止る姿も数多く観察できました。

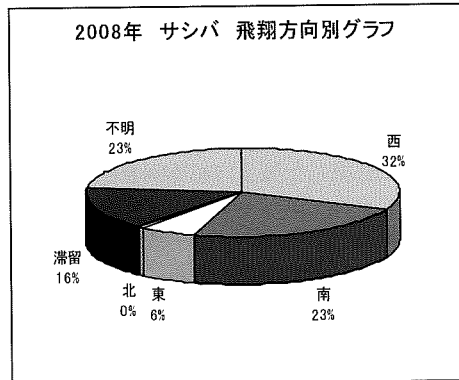
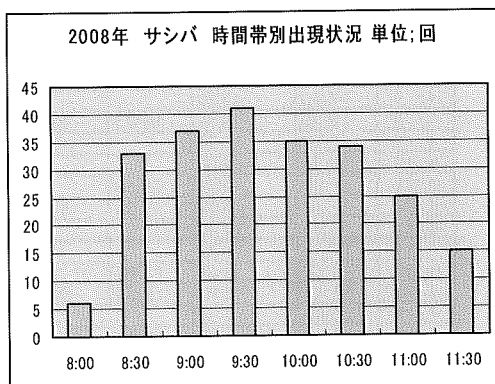
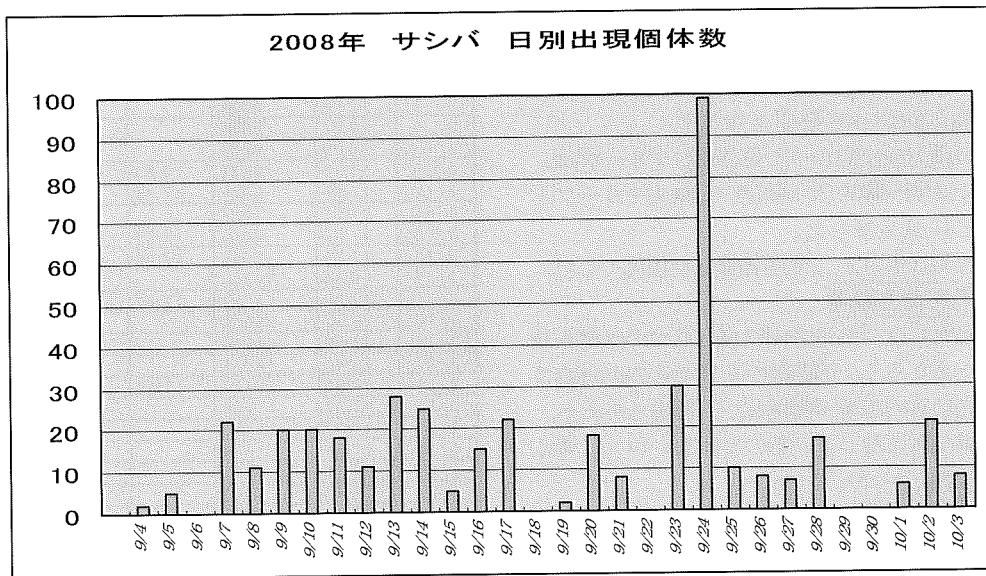
(本ページ「飛翔方向別グラフ」参照)

● 最後に

今回の観察は、午前中だけでしたので、終日やれば観察数や峙入りの状況にも新たな発見があったかもしれません。今シーズンはみなさんの身近な場所でも是非観察してみてください。

ただ、平地はそこを仕事場としている方が多く、もし迷惑をかけるようなことがあれば観察さえできなくなることを念頭に置かなくてはなりません。

最終行になりましたが、今回の観察などにご協力いただいた方々へお礼を申し上げます。



アトリの観察

=越谷市大吉調節池と宮内庁埼玉鴨場の場合=
大塚 操・植平 徹・野村修己

越谷市大吉調節池

最初に気づいたのは今年の1月18日。大吉調節池の野鳥保護ゾーン(以下「調節池」)で、16時30分頃までに、群ごとに計約70羽が日没方向に飛び立つのを確認しました(植平)。以来、2月1日から3人(最少2人)で4月26日まで観察を続けました。

3月中旬頃までは、日没30分前頃から、調節池上空から舞い降りる様に、きまった木(ヤナギ)に一旦とまりアシ原に入ります。10分もするとその木に戻り木の芽を忙しく食べます。やがて日没方向に飛び立ちます。

3月中旬頃からは、殆どが直接アシ原に入り10分位、決まったブッシュ内で羽繕いしながら休み、動きが激しくなると間もなく日没方向に向かって飛び立ちます。

日没方向に向かって飛び立つグループは、最少2羽～最大30羽程度で、飛来グループと同じに見えました。

なお日中は2、3羽を観察した程度でした。

宮内庁埼玉鴨場

私たちは、「日没方向に飛び立つのは罫入りのためだろう。調節池から見てその方向約2km先に宮内庁埼玉鴨場(以下「鴨場」)がある。鴨場が罫になっているのではないかと考えました。

調節池と鴨場で携帯電話を使い調べてみました。その結果、飛び行く方向と飛んで来る方向が一致し、そしてほぼ同じ数の群が2、3分後に飛来することが分かりました。

飛来したアトリは、隣接する大林寺西側の鴨場敷地内の高いケヤキにとまります。しかし、手前の大きいマツの木に遮られ観にくい為、正確な数は把握できません。又、そのケヤキに終結した後上空を旋回したり、戻ったりする場合があります。また、調節池以外にも飛来しています。罫の場所は、鴨場の中にあるアシ原か竹藪ではないかと推測しています。

約2ヶ月間、アトリに楽しませてもらいました。来年も必ず飛来することを祈ります。

日付	越谷市大吉調節池		宮内庁埼玉鴨場	
	日没方向へ		罫入り	
	時刻	羽数計	時刻	羽数計
1/18	16:30	約70羽		
1/29	16:30	70羽		
2/ 1	16:37	25羽		
2/ 2	16:47	40羽		
2/ 3	16:44	70羽		
2/ 4	16:40	40羽		
2/ 5	16:41	52羽		
2/ 7	16:34	62羽		
2/ 9	16:40	70羽		
2/10	16:48	80羽		
2/11	16:36	50羽		
2/13	16:47	約100羽		
2/14	17:12	約100羽		
2/15			17時頃	100羽超
2/16	17:05	32羽		
2/17	16:40	98羽		
2/18	17:05	158羽		
2/19	17:07	99羽		
2/20	17:07	67羽		
2/21			17:17	約160羽
2/22	17:05	約80羽	17:07	約108羽
2/23	17:13	43羽	17:25	約150羽
2/25	17:06	113羽	17:17	約110羽
3/ 1	17:06	約80羽	17:17	約100羽
3/ 3	17:10	61羽		
3/ 5			17:28	約100羽
3/ 7	17:17	約86羽		
3/ 8	17:15	53羽		
3/ 9	17:22	50羽		
3/10	17:15	80羽		
3/11	17:21	129羽	17:23	約100羽
3/12	17:20	67羽	17:25	約100羽
3/13	17:07	111羽		
3/14	17:20	38羽	17:30	約200羽
3/15	17:34	120羽	17:40	約200羽
3/16	17:35	140羽		
3/17	17:30	145羽	17:40	約60羽
3/18	17:32	198羽		
3/19	17:39	189羽		
3/20	17:41	106羽		
3/21	17:45	171羽	17:48	約200羽
3/23	17:31	111羽		
3/24	17:33	144羽		
3/25	17:06	16羽		
3/26	17:31	96羽		
3/27	17:40	62羽		
3/28	17:34	110羽		
3/29	17:33	68羽		
3/30	17:41	87羽		
3/31	17:55	118羽		
4/ 1	17:40	0羽	17:30	約20羽
4/ 2	17:36	30羽	17:56	約100羽
4/ 3	17:40	27羽		
4/ 4	17:30	26羽		
4/ 5	17:54	17羽		
4/ 6	17:50	53羽		
4/ 7	17:50	45羽		
4/ 8	18:00	33羽	18:03	約50羽
4/ 9	18:07	18羽		
4/10	18:09	12羽		
4/11	18:02	3羽	18:10	14羽
4/12	17:52	8羽	18:00	約50羽
4/13	17:43	12羽		
4/14	17:45	0羽		
4/15	17:58	8羽	18:00	39羽
4/16	17:42	6羽	18:00	約50羽
4/18	18:00	6羽		
4/19	17:40	4羽	18:00	0羽
4/20	17:16	4羽	18:01	0羽
4/21	18:00	0羽		
4/22	18:00	0羽		



野鳥情報

桶川市若宮1丁目 ◇アトリの群れ。昨年初冬の初認から今年3月の終認までの自宅付近での記録です。桶川駅西口公園とパークタウン若宮団地の間を行き来していた。落葉の下の餌をあさっていて、人が通ると急いで近くの木の枝に舞い上がっていた。11月30日、西口公園北側ケヤキの木で30羽＋、自宅近くでの初認。12月15日、同所南側滝の南で30羽＋。12月16日、同所で30羽＋。12月18日、同所で30羽＋。1月8日、同所で10羽＋。1月28日、団地管理事務所裏で30羽＋。1月29日、同所で20羽＋。2月1日、同所で10羽＋。2月11日、同所で30羽＋。2月21日、9号棟南で30羽＋。3月3日、同所で40羽＋。3月4日、同所で20羽＋。3月5日、同所で20羽＋。3月8日、団地集会所の庭で（駅から最も近い所）50羽＋。3月10日、同所で50羽＋。3月11日PT31号棟南植込みで30羽＋。3月20日午前11時40分、12号棟南のケヤキで20羽＋。午後1時45分、団地管理事務所北で20羽＋、自宅近くでの終認？落葉の中へもぐり時々「キュキュ」と鳴く。小さな声を初めて聞いた（立岩恒久）。◇3月17日午前6時40分、アオジのさえずり。パークタウン若宮団地1号棟北側ハナミズキの枝で涼しげな声を今年も聞かせてくれた。3月19日午前6時40分、ウグイスの初音。自宅ベランダから「ホーホケチヨ」と今年初めて声を聞く（立岩恒久）。

川口市安行領在家 ◇3月2日、芝川右岸（川口短期大学付近）の河川敷内のアシ原でゴイサギ幼鳥3羽、コサギ6羽（船木数樹）。

さいたま市緑区蓮見新田 ◇3月2日、芝川右岸の仮調整池でホシハジロ♀1羽♀2羽、トモエガモ1羽。2月10日頃から逗留している（船木数樹）。

さいたま市緑区宮本 ◇3月9日、芝川宮後橋右岸で休息中のコガモ10数羽とカルガモ数羽の中にマガン1羽。その後10日から1

週間調査したが確認できなかった（船木数樹）。

さいたま市緑区宮本 ◇3月15日午後1時頃、ヒレンジャク1羽、見沼代用水西縁斜面林でキジタの実を採餌。以後5日間ほど馬場東公園付近のキジタの樹林域でヒレンジャク数羽を確認（船木数樹）。

さいたま市大宮区天沼町 ◇3月3日、自治医大付属さいたま医療センター入口横の茂みでシロハラ1羽、ムクドリ多し、キジバト（本多己秀）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月7日午前9時10分頃、ヒレンジャク6羽、南側のハンノキ林の方から飛来。キジタの実に来る。すぐにヒヨドリ数羽がやってきた。10分位で釣り堀の向こうに飛び去る。アカゲラの声、シメ、ツグミなど。3月8日午後3時50分頃、キレンジャク1羽、前日ヒレンジャクのやってきた辺りで待っていると反対側から「チリリ」の声、探してみると地上1m位の枝上にいた。すぐに飛び立ちブッシュの向こうに消える。飛び立った時、尾羽の黄色が目立った。3月15日、キレンジャク1羽。3月18日、ウグイス、いい声でさえずる。鉄塔上にオオタカ成鳥1羽、カラスにちよっかいを出されて飛び去る（藤原寛治）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇3月16日、子供の森でヒレンジャク約15羽。ピクニックの森でヒレンジャク約30羽、キレンジャク



2月14日、神奈川県厚木市小鮎川下小鮎橋際で、シラコバト1羽（大橋雅敏）

約10羽の混群。林内の地上に降りて、リュウノヒゲ?の実を食べていた(鈴木紀雄)。

蓮田市蓮田 ◇3月3日午前9時、自宅庭でウグイスが「ホーホケキョ、ケキョケキョ」とさえずる。3月11日、同所でカシラダカ、モズを見る。ハクセキレイが美しい声でさえずる(本多己秀)。3月12日、同所でメジロ、シジュウカラさえずる。3月27日、自宅屋敷林でツミ1羽、シラカシの木にとまっていた(本多己秀・久文字)。

蓮田市蓮田根ヶ谷公園 ◇3月5日午前7時、アトリ13羽、ハクセキレイ、メジロなど。3月20日午前5時30分、ウグイス3羽が「ホーホケキョ」とさえずっていた。3月24日午前6時、ツグミ、シジュウカラ、ムクドリ、オナガ12羽十、ツミ1羽上空通過。サクラの花がほころんだ。3月25日、午前6時30分、ルリビタキ2羽、1羽はブルー、小さなブッシュより飛び立った。ウソ♂1羽♀2羽、アトリ9羽、1羽の♂は頭が真っ黒だった。ヒヨドリ、ムクドリ多し、オナガ5羽、シジュウカラなど。3月26日、チョウゲンボウ久々に登場。20m上空でホバリング。ツグミ、シジュウカラ、ムクドリなど。3月29日午前6時～6時30分、ハチジョウツグミ1羽、30分の間に2回確認した。福島で見て以来2回目の目撃。オナガ6～7羽、シジュウカラ、キジバト、ツグミ、シロハラなど。3月30日、ハチジョウツグミ1羽(本多己秀)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇3月10日、ハシブトガラスが枝を折っていた。オオタカが2羽同時に帆翔、その後屋敷林に消えた。シメ5羽が梢で日向ぼっこ。コジュケイが盛んに鳴く。その他、アオジ、シロハラなど。3月18日、ハシボソガラスが巣の中に居る。水場の倒木にハイタカ1羽、頭上を飛び去る。その他ルリビタキ♀1羽、カケス、コジュケイ2羽、シロハラ、アオジ、カワセミなど。3月30日、ハシボソガラス♀が巣の中で優しく鳴いた。♂が何処からか飛んできた。ツグミ8羽の群れが林床で採餌。腹部に赤味のあるツグミがいた。ハ

チジョウツグミのようだ。ヒヨドリ数羽が桜の蜜を吸っていた。他にカシラダカ8羽の群れ、頭の黒い固体も混じる。ルリビタキ♀1羽、オナガの群れ、モズ、シメ等(長嶋宏之)。

蓮田市黒浜沼周辺 ◇3月22日、ツバメ5羽が飛び交っていた、今季初認。強風の中、アシ原上空をハヤブサが旋回。田んぼでカエルの卵塊、オタマジャクシも泳いでいた(細田敦史)。

越谷市七佐町8丁目 ◇3月8日午前7時30分頃、シラコバト1羽、畑におりていた。ここでは、久しぶりの観察。ハクセキレイ1羽。カワウ北から東に通過(小菅靖)。

越谷市大吉調節池野鳥保護ゾーン ◇3月12日午後5時10分、キレンジャク7羽、シダレヤナギに飛来し新芽を食べていた。今年キレンジャクが県内の各地で確認されているが、越谷にも来ていた。3月14日、ツバメ1羽悠然と飛んでいた。今年の初認(大塚操、植平徹ほか2名)。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇3月11日、水路の排門前ワンドのネコヤナギの木に、ベニマシコ♂3羽♀1羽。さかんに花穂をついばんでいた。その上の枝に、ウグイスが止まって「ホーホケキョ」とさえずった。高麗川に面したネムの木広場脇の立ち木に、キレンジャク10羽の群れにヒレンジャク1羽。下には餌となるヤブランが群生している(増尾隆)。

戸田市彩湖 ◇3月15日、ヒメアマツバメ2羽、3月17日、ミサゴ1羽(海老原美夫)。

武蔵嵐山町 ◇3月16日午前10時45分頃、暖かい春の1日、そしてラッキーな1日。菅谷館跡の林の中で1羽のヒレンジャクを発見し、5メートルぐらいまで近づくことができました。15分ぐらい動かずにいてくれたのできれいな姿を堪能。その後7羽がいて、計8羽確認できました。主人と2人で久しぶりのバードウォッチングでしたが、偶然ヒレンジャクと遭遇できました(林澄恵)。

宮代町東武動物公園 ◇3月16日、ウグイ

スがきれいな声でさえずっていた。セグロセキレイが稍でさえずっていた。ヒヨドリが5～6羽ヤナギの新芽を食べていた。コブハクチョウが抱卵、本日産卵したとのこと。その他ホシハジロ♂8羽♀1羽、マガモ♀各7羽、カワセミ1羽、オオバン2羽、カルガモ15羽、カワウ多数(長嶋宏之)。

熊谷市大麻生 ◇3月17日、ヒレンジャク40羽以上、キレンジャク10羽士の群れ。いずれの個体も初列風切羽内弁の白い羽縁を欠くか、あっても不明瞭なことから、第1回冬羽の若い個体群と思われる。樹上に群がり、様子を見ては地上に降りてヤブランの実をついばみ移動する、という行動を繰り返していた。当地での3月の探鳥会でも両種が観察されており、比較的早い時季に渡来していたものかもしれない(榎本秀和)。

川越市寺尾調節池 ◇ヒレンジャク4羽、ヤナギの木にとまっていた(藤掛保司・宮子、中間一郎・清美)。◇3月20日、ツバメ初認。3月27日、イワツバメ初認(藤掛保司・宮子)。

長滞町宝登山 ◇3月20日午前11時頃、登山道途中でカヤクグリ1羽、ウソ♀1羽、アカゲラ♂1羽、キジ♂♀各1羽。宝登山西側山稜上空を飛翔するノスリ2羽、トビ1羽、オオタカ1羽(船木数樹ほか20名)。

上尾市丸山公園 ◇3月21日、トモエガモ♂1羽、カルガモと一緒にいて5m位まで近寄ってきた。アトリ約60羽、頭の黒い夏羽の♂も混じっていた。ムクドリ、シロハラ♂が落ち葉をかきまわしていた。ウグイスがいたるところにいた。他にキジ♂1羽、コサギ、キセキレイ、ハクセキレイ、シジュウカラ、コゲラ、アオジ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、ツグミ、シメ、ジョウビタキ、コジュケイ、カケス3羽など(本多己秀・久文子)。

越谷市中島中川河川敷 ◇中川河川敷のシラサギのコロニーに今年もサギが集まり始めた。3月21日、チュウサギ7羽。その後寒い日に姿を消したが、4月4日に15羽飛来、それから徐々に数が増えている(戸張勝

弘)。

川島町八幡、中山 ◇3月26日、越辺川土手を散歩中、ツバメ4羽。土手スレスレに飛翔。今年初認。ハシボソガラス1羽、水際で水浴。あまり見たことないのでしばらくの間観察。「カラスの行水」なのかなと思ったがそうでもないようだ。水に入り羽を2、3回バタバタさせた後、岸にあがって羽繕いをした後、また水に入りバタバタ。これを4回繰り返していた。入念に化粧?の後西方向に飛び去る。コハクチョウ8羽(うち幼鳥4羽)、まだいた。例年だと3月20日前後にはいなくなるのに。去年から環境省の指導により餌付けをやめたため幼鳥の体力が不足しているのかな。中山の塗装工事会社前の電柱てっぺんにいつも見るシラコバト1羽。去年12月から今年1月はぱったり姿を見なかったが2月からまた姿を見せてくれるようになった。シラコバトはこの他川島町には4、5羽確認している(阿部義裕)。

羽生市羽生水郷公園 ◇3月27日、ヒバリが上空でさえずっていた。ウグイスがきれいにさえずっていた。バン2羽とカルガモ30羽士が陸で採食。ツバメが3羽水面をかすめていた。その他、オカヨシガモ♂1羽♀1羽、キジ♂1羽♀1羽、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、シメ、ツグミ等の冬鳥。帰り際チュウヒがアシ原を舞い、ノスリが飛んだ(長嶋宏之)。

白岡町元荒川八幡橋下流 ◇3月28日、中洲でコチドリ3羽、イソシギ1羽、ハクセキレイ1羽が採餌。流れに逆らってセグロカモメが1羽、ハシビロガモ♂2羽♀1羽。対岸の木でカラスが抱卵中(昨年と同じ巣を使用)。その他、カルガモ、コガモ多数(長嶋宏之)。

表紙の写真

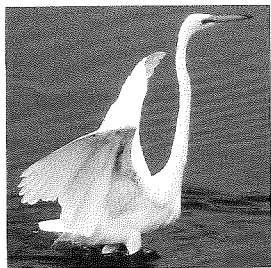
タカ目タカ科ハイタカ属オオタカ

林の中で思いがけない遭遇。あわててシャッターを切りました。

鵜飼喜雄(深谷市)



行事案内



ダイサギ(藤掛宮子)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月7日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：若葉が茂り、鳥の姿が見えにくい季節です。その代わりに鳴き声を楽しみましょう。この地名物オオヨシキリのにぎやかな合唱、昨年声を頼りにカウントしたらなんと 57 も！ 今年もカウントします。ホトトギスやカッコウの声なども期待しましょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：6月7日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：繁殖期たけなわ。鳥の種類は少ないけれど、巣立ちの雛が見られる季節です。梅雨入り前の鳥たちのくらしをそっ

と観察しましょう。

ご注意：調節池の工事が本格化してきました。

当日の状況によりヘルシーロードコースに変更することもあります。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：榎本(秀)、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鵜飼、進士、岡田

見どころ：梅雨入りで中止になることが多い 6月の大麻生ですが、子育てに追われている野鳥たちを観察できます。昨年は親鳥の給餌を待つツバメや、2羽の雛をのせたカイツブリのほほえましい姿が楽しめました。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月14日(日)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:10→坂戸で越生線乗り換え 8:39 発。または寄居 7:38→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮 7:35→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高草木、高橋(優)、林、藤掛、藤澤、増尾、持

丸、山田(義)

見どころ：ホトトギス、定番のカワセミ、そして身近な鳥たちを楽しめます。もしかしたら猛禽類も。

静岡県・朝霧高原探鳥会 (要予約)

期日：6月20日(土)

集合：午前6時50分、JR大宮駅西口ソニックシティ前広場。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

解散：当日午後7時ころ、大宮駅西口。

費用：7,000円の予定(往復バス代、高速道路料金、保険料など)。過不足の場合は当日精算。参加者数により費用の増減があります。

定員：30名(先着順、当支部会員優先、最少催行人員20名)

担当：榎本(秀)、青木、長野

申込み：普通はがきに、住所、氏名、年齢(保険に必要)性別、電話番号を明記して、榎本秀和

まで

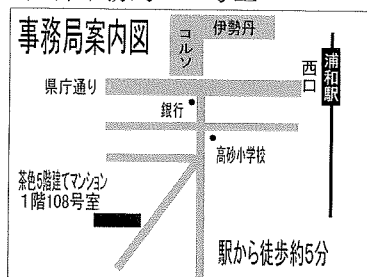
見どころ：「夏鳥が少なくなった」という声を聞きます。そんな夏鳥のひとつアカモズを、富士山麓で探します。もちろん他の鳥も楽しめますが、主にアカモズねらいの探鳥会です。

ご注意：雨天決行です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月20日(土)午後3時～4時ころ。

会場：支部事務局108号室



さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東

口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：6月の探鳥会は小雨を承知。桜並木が傘代わりです。遠くでカッコウの鳴く声も聞こえます。芝川にカルガモの親子が泳ぎ、バンも子育て中。



4月の三室探鳥会で、ハナミズキの花とホオジロ(今井基雄)

支部総会のご案内

日時：6月21日(日)

午後1時30分 受付開始

午後2時～2時30分 記念講演

午後2時30分～4時30分 総会

会場：さいたま市立浦和コミュニティセンター(浦和駅東口すぐ前、パルコの建物)10階第14集会室。

記念講演：財団本部理事安西英明氏

「鳥に学ぶ、男と女」

総会議題：平成20年度事業報告と決算報告、平成21年度事業計画と予算案、平成21年度役員の選出。

参加資格：支部会員であればどなたでも参加できます。

支部の規約に基づいて昨年度の支部活動を振り返り、今年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。

総会後には、支部事務局内での懇親会も予定しています。



行事報告

12月6日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：52名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ ハイイロチュウヒ チュウヒ コチョウゲンボウ オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 風あるが雨上がりで空気の透明感がある。谷中湖では今年も釣り人多く水鳥達は遠いが、西橋付近でハジロカイツブリが2羽、かわいい姿だった。中ノ島の谷中ブロックではカンムリカイツブリやミコアイサの♀、マガモ、ヒドリガモ等水鳥たちはここに集中。オナガガモ、今年は多い。オオタカが現れ、カモたちが一瞬飛び立つ。チュウヒ、歩くうちにノスリ、ミサゴ、コチョウゲンボウ、トビ、ハイイロチュウヒ♀とタカ類が姿を見せてくれた。風も強まり小鳥類は出難い状況も、渡良瀬らしい探鳥会だった。(内田孝男)

12月7日(日) 北本市 石戸宿

参加：70名 天気：快晴

カワウ アオサギ マガモ コガモ オオタカ コジュケイ バン キジバト コゲラ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ドバト ガビチョウ) この冬一番の冷え込みにも、多数の参加者。それに比して、出現鳥の種類はやや少なかったが、内容で勝負！ 8月に続いて今回もコジュケイ家族の行列に遭遇。桜堤では真っ白な富士山を背景に、

オオタカの飛翔を全員で堪能。ジョウビタキは、紋付姿で何度も登場し、参加者から喝采。県内各地で群れが観察されているアトリは1羽だけだった。(浅見 徹)

12月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：62名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オオタカ チョウゲンボウ ハイタカ ハヤブサ バン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) ヘルシーロードコースを歩いた。寒く、澄み切った冬晴れの日。真っ白な富士山はもとより、高台からは、白い赤城山や榛名山と思われる山々まで見ることができた。真っ青な空では、タカの仲間とカラスとのバトルが数箇所で見られた。地上ではまだ落ち着かないツグミたちなど冬の鳥たちと出会うことができた。

(伊藤芳晴)

12月13日(土) 所沢市 狭山湖

参加：38名 天気：曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オナガガモ ホシハジロ ホオジロガモ トビ オオタカ キジバト コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (36種) (番外：ドバト) 周辺の林地は、下草がかなり刈り込まれていて鳥影が薄く黙々と探し歩いたが、湖畔近くでイカルが出現してくれて一気に盛り上がった。カンムリカイツブリは群れで健在ながらも、個体数は明らかに減少しており気がかりだ。(石光 章)

12月14日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。(榎本秀和)

12月14日(日) さいたま市 岩槻文化公園

雨のため中止。

(長野誠治)

12月17日(水) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 26名 天気: 曇後雨

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ オオバン セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 谷中湖では白くなってきたミコアイサやカワアイサも姿を見せてくれた。中の島でチュウヒの飛翔を見、浮島に止まったタカの識別を楽しんだ。ベニマシコなどの小鳥を探したりしている内に、時々小雨が落ちてきて東谷中橋を過ぎた頃から本降りとなったため、中の島の東屋で鳥合わせをして早めに終了した。この天候の割には楽しめたと思う。

(玉井正晴)

12月20日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 56名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オカヨシガモ オナガガモ トビ オオタカ ノスリ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシブトガラス (40種) (番外: ガビチョウ) (喜多峻次)

12月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

新井浩、池田泰右、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司

12月21日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 40名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ コハクチョウ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシブ

ロガモ キジ キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種)

(番外: ドバト) 昨年は物凄風の中の探鳥であったが、今日は無風で暖かい中のスタート。この近辺も宅地化が進み心配したが、100羽を超えるミヤマガラスの群れ。ハシボソガラス・ハシブトガラスもいたのでそれぞれの特徴をじっくり観察できた。また早めに集合場所に来ていた人達はコハクチョウの編隊飛行を堪能。(あまりにも素晴らしい飛翔のため開始ちょっと前だが出現鳥にいらさせていただいた。)

(青木正俊)

12月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 55名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ ハイタカ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 三室探鳥会に出て、今年も無事に終わったと満足した参加者でにぎわった。出現した鳥も多く、当たり年といわれるアトリが24年目に初出現して、三室で見られた鳥の数が118種になった。来年も楽しくと誓って散会した。

(楠見邦博)



4月26日秋ヶ瀬探鳥会



●今年も「ヒナを拾わないで!!」

(財)日本野鳥の会など共催、環境省後援で、「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンを実施。野鳥のヒナが地上にいても、拾わないでください。落ちていてではなく、降りているのです。迷子になっているのではなく、親鳥が近くにいて、人がいなくなるのを待っているのです。ヒナはそのままにして、できるだけ早くその場から離れてください。ネコやカラス、車などが心配なら、ヒナを近くの茂みなどに移動することはできます。親鳥はヒナの声で居場所がわかりますから。

自然の世界で生きていけるように、人が鳥のヒナを育てることはできません。何とか元気に育つと祈りながら、そのまましておくほかないのです。

●谷口さんのサイン入り本 10 冊限定販売



2～3月号で紹介したイラストレーター谷口高司さんと谷口りつこさんの共著『大人のためのバードウォッチング入門』が東洋館出版社から刊行されました。支部では特別にお願いしてサイン入り 10 冊を仕入れ、支部会員優先で、定価「1600 円+税」のところ、1600 円で販売します。探鳥会などで目にとまりましたら、手に取ってごらんください。

●さいたま市中央図書館に『しらこぼと』を展示

同図書館(浦和駅東口パルコ8階)では、見沼

たんぼに関連した資料を展示する「見沼たんぼコーナー」を新設しました。見沼たんぼで活動する市民団体のひとつとして当支部も、毎月の支部報をファイルにまとめて展示、見沼たんぼの探鳥会に加え、支部活動全般の案内をすることになりました。

●会員数は

5月1日現在 2,149 人です。

活動と予定

4月11日(土) 5月号校正(海老原美夫・大坂幸男・志村佐治、藤掛保司・山田義郎)。

4月19日(日) 役員会(司会:長野誠治、各部の報告・親子探鳥会講師派遣・支部総会準備・その他)。

4月20日(月)「支部報だけの会員」に向けて5月号を発送(倉林宗太郎)。

●事務局の予定

6月6日(土) 編集部・普及部・研究部会。

6月13日(土) 7月号校正(午後4時から)。

6月14日(日) 役員会(午後4時から)。

6月20日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

隣家の青年に「4月29日から続く12連休とは結構ですね」と話したら、「どうしてどうして、仕事が無くて休みなんです。休み無く働いている人がうらやましい」との返事。休みたかった若いころの自分と比べて、複雑な気持ち。(内藤)

前号「サギ類の婚期色」、時季についての記載は私のフィールド大久保農耕地での観察結果。コロニーなどではもっとずっと早くから観察できます。(海老原)

しらこぼと 2009年6月号(第302号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
本誌掲載記事はホームページに掲載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社